## 臨床医工情報学　コンソーシアム関西　第1回記念講演会を開催

# 高度医療・健康産業の創出・発展目指す

高度医療・健康産業の創出・発展を目的として設立された一般社団法人「臨床医工情報学コンソーシアム関西」（宮原秀夫会長）が、広域大学連携支援のほか、今年から次代のリーダーを育てるための社会人向け人材養成塾を開講するなど、活動内容を拡充する。2013年には本拠を、ＪＲ大阪駅北側に開設される「ナレッジ・キャピタル」に移す予定。今後、関西の産学官が連携し人材を育成する場としての大きな役割が期待される。

## 「ナレッジ・キャピタル」本拠に
## 関西の地域経済活性化に貢献

コンソーシアム関西会長
前大阪大学総長
**宮原 秀夫 氏**

臨床医工情報学コンソーシアム関西は2008年、大阪大学MEIセンター（臨床医工学融合教育センター）の中にある、地域連携協議会を母体として新たに設立された社団法人だ。

少子高齢化が進む中、日本が豊かで安心し、生きがいを感じることのできる福祉社会を作り上げるためには、医療・福祉の質の向上や、地域医療の確保、医療の情報化など、諸外国に比べまだ十分と言えない、高度医療・健康産業の発展・普及のための基盤づくりが重要だ。

そのためには、医療・福祉に関する学際的な知識を持つ高度な職業人を育成し、これら若い医療人たちの意欲を、知識集約型の新産業創出につなげる必要があるという考えに基づき、同大学のMEIセンターは設立された。

医学、生命化学、工学、情報学など、幅広い分野から専門家が集まり、スキルアップ講座など、学部学生、大学院生のほか、社会人も対象にした教育を行っている。

ただ、これらの人材教育には、座学だけでなく、演習や実験を行うための施設や設備が必要になる。これは、大学内における連携だけでは実現が難しい面もあるため、複数の大学や専門学校、さらには、医療機関、企業・経済団体、公的機関なども巻き込んだ形での、一歩進んだ教育システムの確立が求められる。その目的達成のため設立されたのが、臨床医工情報学コンソーシアム関西だ。

設立後、初の本格的な活動となったのは、「関西5大学連携事業」（広域大学連携による「臨床医工学・情報学」高度人材育成システムの構築）のプログラム実施の一部受託である。

この5大学連携事業は、文部科学省の戦略的大学連携支援事業に採択され、08年度から10年度まで3年間実施された。学際融合領域の臨床医工学・情報学に精通した高度な人材育成などを目的に、武庫川女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、大阪電気通信大学、大阪薬科大学、関西大学の5大学が連携。

具体的な教育内容として、科学哲学や職業・研究倫理の習得を目指す「リベラルアーツ教育」、関西地域の活性化に必要な取り組みを学ぶ「社会教育」、座学と実習により専門的な知識の獲得を目指す「プレプロフェッショナル教育」、女性のキャリアパス設計を支援する「理系女性人材育成」という、学部学生を対象にした4つのプログラムと、高校生向けの「高大連携教育」プログラムを実施してきた。期間中の修了者数は、5大学合計で141名。

文部科学省の支援期間は10年度で終了したが、今後も本プログラムは継続し、コンソーシアム関西が中心的な役割を担っていく計画だ。

また、今年9月には新たに、社会人を対象にした、次代を担うリーダーを育成するための領域横断型教育プログラム「羅針塾」（塾長・宮原秀夫氏）をスタートさせる。

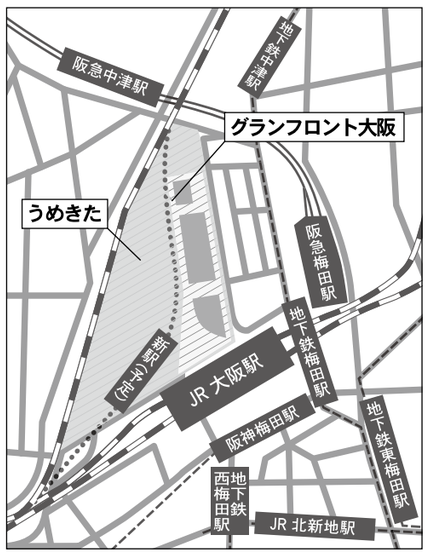
13年にはコンソーシアム関西の拠点を、ＪＲ大阪駅北側に誕生する予定の知的創造拠点「ナレッジ・キャピタル」に移す予定。ナレッジ・キャピタルは、駅北側で大規模開発が進む「うめきた」（ＪＲ貨物駅跡地＝北ヤード）の先行開発区域「グランフロント大阪」に開設が計画されている。

コンソーシアム関西は、そのナレッジ・キャピタルの施設の1つである大阪オープン・イノベーション・ヴィレッジ（仮称）のロボットビジネス創出拠点に参画する予定。医療機器の開発、医療・看護・介護・福祉の現場で活躍するものづくりや快適な暮らしを提案する製品やサービスの開発、それらを支える人材育成など、コンソーシアム関西が中核的な役割を担い、大阪市などと共同で取り組んでいくという構想である。

大阪駅に隣接する交通至便な「うめきた・グランフロント大阪」に移ることによって、より多くの機関との連携が取りやすくなるため、高度人材育成の活動を一層深化させることができると期待されている。

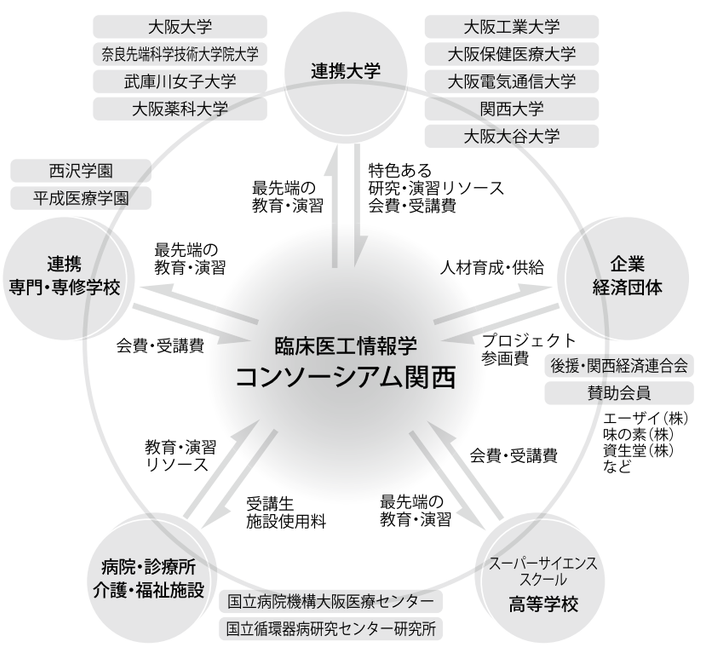
現在、コンソーシアム関西は正会員（約90）と賛助会員（約20）で組織されている。今後は活動のための財政基盤を固めるため、賛助会員増大に取り組む。また、連携教育機関・医療機関や、連携企業・自治体を拡充するほか、国際化時代の医療人を養成するため、海外の教育機関との連携も視野に入れている。

さらに、高度人材育成機能とともに、産学官連携のための提案機能や、医療業務のコンサルティング機能、交流・人的ネットワーク形成機能を高めて、高度医療・健康産業の発展を軸とした、関西の地域経済活性化に貢献したい考えである。




### 各機関との連携

2011年6月現在




## 広域大学連携で人材を育成
### ―活動報告会・記念講演会で強調―

コンソーシアム関西が事業委託を受けて取り組んできた関西5大学連携事業の3カ年活動報告会と、映画監督の大森一樹氏（大阪芸術大学芸術学部映像学科教授）を招いてのコンソーシアム関西第1回記念講演会が、6月5日、武庫川女子大学を会場に開かれた。

午前中の5大学連携事業3カ年活動報告会では、糸魚川直祐・武庫川女子大学学長のあいさつ、福尾惠介・同大学教授による5大学連携事業の概要説明の後、学部学生を対象にした4つのプログラムに「高大連携教育プログラム」と「サマースクール（宿泊セミナー）」を含めた6つの教育プログラムについて、担当教授による具体的な活動の報告があった。

さらに福尾教授が今後の課題と展望について報告。受講生を増やすため、わかりやすい科目名にするなど教育プログラムのブラッシュアップを進めるとともに、学生の交流を促進する策の導入や、受講後の学生が知識を応用できる仕組みの確立などが必要と強調した。さらに、関西の他大学の参加により事業を発展・拡大させることも課題とした。

最後に「高等教育の現状と大学連携への期待」と題して、文部科学省の藤原章夫大学振興課長＝写真＝が特別講演を行った。藤原氏は「グローバル化の進展、少子高齢化といった環境変化が起こる中、大学進学率は着実に向上しているが、学生の留学意欲が低下するなど、大学の現状は必ずしも満足すべきものではない」と指摘。「大学の質の保証・向上をはかるために、各大学のミッションの明確化と、大学間連携が果たすべき役割は大きい」と強調した。

具体的には「①大学の強みを結集し、特色ある教育研究の推進や教育水準の高度化を図る②教育の質保証を推進するための大学間相互の評価システムを構築する③自治体・地域企業とより一層連携した地域の再生発展の取り組みをする④効率的かつ効果的な大学運営で経営基盤を安定させる――などが重要である」と語った。

◇

午後に開かれた記念講演会では、宮原秀夫・コンソーシアム関西会長が「教育機関などが相互に連携し、それぞれの特徴を生かしながら人材を育てていくことが、コンソーシアム関西の目的。これから新しい時代を切り開いていく若い人たちには、健康で安全に、また安心して暮らせる社会づくりを目指してもらいたい」とあいさつ。

続いて、コンソーシアム関西の組織と活動についての報告に移り、5大学連携事業や大阪大学MEIセンターのスキルアップ講座など、臨床医工情報学分野の人材育成事業の内容説明、コンソーシアム関西が拠点を移す予定をしている、ナレッジ・キャピタルのロボットビジネス創出拠点の説明、今年からスタートする予定の社会人向け領域横断型教育プログラム「羅針塾」の紹介が行われた。

そのあと、大森一樹監督が「『映画的』なものの見方から広がる世界」と題して記念講演を行った。講演の中で大森監督は根岸英一米国パデュー大学特別教授の研究論を引用しながら、研究と映画づくりの共通点について解説。時代を担う人材の発見、育成の重要性を強調した。

### 大森一樹監督の講演要旨

## 創造的なものの見方できる人材の発見を

今や産業としての映画にとって重要な要素は、原作、キャスト、そしてお金、すなわち出資者になってしまった。この3つがそろえば、映画という商品はいくらでも生産されていく。

ただ、私はこれとは別に、映画には欠くことのできない3つの要素があると考えている。目で見る映像、耳で聞く音、そして、時間である。映像と音がともに大事な要素であるというのが、映画が総合芸術であるといわれるゆえんだが、忘れてならないのは、3つめの時間という要素だ。

映画が持っている時間は、作品ごとにすべて違う。時代も違うし、1本の映画で見せる時間の長さも違う。時間の流れも自由に変えられる。この時間というものに、人間と、空間とを合わせた3つの「間」を、自在に組み合わせて、作品を作り上げるのが映画監督の仕事だ。

時間、空間、人間という3つの「間」は、映画に込められた情報である。この情報は無声映画からトーキーに、モノクロからカラーに、そして画面のサイズがワイドにと、映画作りのテクノロジーが進化するにつれて増えてきた。その情報というものをいかに操るかが、監督の腕の見せどころである。

ノーベル化学賞を受賞された根岸英一博士（米国パデュー大学特別教授）は、研究という行為について、ご自身のお考えを次のように話されている。他者は、宮原秀夫・コンソーシアム関西会長が「教育機関などが相互に連携し、それぞれの特徴を生かしながら人材を育てていくことが、コンソーシアム関西の目的。これから新しい時代を切り開いていく若い人たちには、健康で安全に、また安心して暮らせる社会づくりを目指してもらいたい」とあいさつ。

続いて、コンソーシアム関西

> 探求という行為には、知識、判断、アイデアが要求されるし、意志と行動が伴ってなければならない。さらに、発見に至るには、運も必要である。
>
> この図式は映画づくりにも当てはまる。ただ、私は映画づくりを目指す若い人に、作戦の立て方や探求の仕方をアドバイスすることはできるが、運のつかみ方はもちろん、他者のニーズや自身の表現願望まで、教えることはできない。これは自分でつかむ、あるいは、考えるしかないものなのである。
>
> 作戦の立て方は教えることができる。映画的なものの見方をすることだ。つまり、今までの発想をガラリと変えて、角度を変えてものを見ること、見えないものを見ようとすることである。そういうクリエイティブなものの見方が、先天的にできる人がいる。そういう優れた人材を見つけ出すことも大切だ。

## 社会人向け目利き養成講座
## 「羅針塾」が9月にスタート

コンソーシアム関西が大阪大学MEIセンターなどと共同で社会人向けに開く領域横断型教育プログラム、それが「羅針塾」だ。不確実な現代社会の羅針盤となる次代のリーダーを育てるという意味で命名した。関西の企業などの組織の中堅以上を対象に、現代社会の難題に挑み、真価を見極め、そこから潜在需要を見抜き「新しい健康価値」を創造する「目利き」の能力を育てるのが目的。

政府は社会の各層で活躍できるリーダーを養成する「リーディング大学院」の構築を支援する政策を打ち出している。大阪大学は免疫と再生の融合による医療イノベーションを目指す融合研究大学院プログラムを持つなど、複眼的に領域を理解できる人材を育てるシステム作りでは実績があり、領域横断型教育プログラムの開設を決めた。

医学、工学から経済学や社会学までの領域の教育プログラムを用意し、複眼的なものの見方ができる柔軟性と、国際感覚を持ちグローバルなコミュニケーションが取れる能力を持つ、高度な人材を育てたいとしている。

第1回目の羅針塾は9月3日と4日の2日間。大阪大学を中心とした各分野トップ研究者の講師陣に加え、評論家の金美齢氏を招いて、大阪市内一流ホテルで宿泊・食事付きの講座を開く。定員約25名。詳細は7月初旬にホームページで公開の予定。http://www.rashin-juku.conso-kansai.or.jp/

## 臨床医工情報学　コンソーシアム関西　賛助会員募集

「コンソーシアム関西」では、医療分野における演習、実習に基づいた教育プログラムを大阪大学を中心に関西地域の研究・教育機関、医療機関、企業などと連携し、総合的な教育システムの構築をめざしています。優秀な人材を社会に送り出すためには、次代を担う意欲ある若者に最高・最先端の教育を安価で提供できるシステム作りが社会的責務の一つであると考えます。これら「コンソーシアム関西」の設立趣旨、事業内容などをご理解いただき、今後の活動を支えていただける賛助会員へのご加入をお願いしております。賛助会員には、連携大学、医療機関などの教員、研究者、受講学生らとの意見交換会や会員企業の新産業創出などの相談会も行います。

**個人会員一口：1万円から**　**法人会員一口：10万円から**

申込書は、下記ホームページからダウンロードまたはお電話でご請求のうえ、コンソーシアム関西事務局まで郵送してください。

お問い合わせ
一般社団法人 臨床医工情報学 コンソーシアム関西
〒530-0005　大阪市北区中之島4-3-53 大阪大学中之島センター8F　TEL：06-6444-2144
http://conso-kansai.or.jp